

普段の様子が変わったと感じたら
もの忘れ相談チームがサポートします
 対象となる方

★40歳以上で、自宅で生活し、かつ医療や介護サービスに繋がっていない方。

サポートの流れ

- ① 相談を受け、医療・福祉の専門職から自宅を訪問（生活の様子を確認、本人や家族から話を聞く）
- ② 医師を交え、その方に必要なサポートを話し合う（お聞きしたお話をもとにサポートの内容を検討する）
- ③ 必要なサポートを実際に行う
 例）受診や介護サービスの調整、集いの場の地域情報、家族への認知症に関する情報提供など。
- ④ ケアマネージャーへの引き継ぎ（今後中心となって支援にあたる人にバトンタッチ）
- ⑤ もの忘れ相談チームによるサポートの終了

認知症は治らなから病院へ行っても仕方ない、そう思われる方もいらっしゃると思います

認知症といってもその原因はさまざまです。また、認知症のようにみえても別の病気がひそんでいることもあります。認知症になっても、適切な治療や介護、環境によってお状態が維持できれば、本人も家族も落ち着いた生活を送ることが出来ます。

シトズで「認知症」について
 取り組みを紹介しています
 今回は、認知症の早期相談
 につなげる取り組みです

「物忘れが多くなりました」
 「最近、頭がぼんやりして
 物事を考えられず」
 「おばあちゃん
 家事しなくなった」

紀美野町では、関係機関や
 地域と連携し、
 認知症になっても自分らしく安心
 して暮らせる町づくりに取り組んで
 います。
 ご本人や家族だけで悩まず
 気軽にご相談ください！！

お問い合わせ
 紀美野町保健福祉課

電話
 489-9960



手話っち



指を広げた両手を真横に近づけ
 掌がおおぐ動作を繰り返す



右手拳で顎をこするよりに
 2回下ろす



左手のつまみの指先に右手の指先
 をつけて短く2方向に引き下ろす

「ごぞんじですか？」 「子ども用車いす」 ♡

病気や障がいのある子どもたちのためのバギータイプの車いすは、ベビーカーとの見わけが付きにくいことから「ベビーカーは折りたたんでください。」などと言われたり理解されにくい時があります。

「子ども用車いす」の存在を知ってもらうため「車いすであることを知らせるマーク」が考案され、啓発が進められています。「子ども用車いす」を見かけた時は、そっと温かく見守ってください。



正しい知識と
 ご理解を—。

※ マークは他にもあります。



ボランティアだより

ボランティア
 伝言板

ポリ袋クッキング
 はじめの1歩

材料(1人分)

- キャベツ(千切り) 40g
- ニンジン(千切り) 30g
- A スープの素 ホンダ 1/4
- 水 150ml (3/4カップ)
- 塩・コショウ 少々
- パセリ 少々

—ジュリエンスープ—

《ジュリエンスープとは フランス語で 野菜の千切りのこと》

—作り方—

- ① ポリ袋にAを入れ、水を張った鍋に決めて空気を抜き、袋の口を結んで火にかける
- ② 沸いたら、やや火を弱めて沸騰を保つ
- ③ 沸騰後10分取り出し、塩・コショウで味付けし、パセリを散らす

【必ず役立つ震災食】より

編 著 公益社団法人 石川県栄養士会
 〒920-0963
 石川県金沢市出羽町2-1 県庁出羽町分室
 TEL・FAX 076-259-5061
 発行 株式会社 北國新聞社
 〒920-8588
 石川県金沢市南町2-1
 TEL 076-260-3587(出版局直通)
 FAX 076-260-3423